

## テーマ：マイナンバー還付のマクロ的影響 2015年9月9日(水)

～経済成長率を+0.03%ポイント程度押し上げにとどまる～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 永濱 利廣 (03-5221-4531)

(要旨)

- 10%を超える消費増税時には効果的な逆進性対策が必要と考えられる。2017年4月に予定されている消費増税に対し逆進性への配慮として軽減税率に代えて、酒を除くすべての飲食料品の消費税軽減としてマイナンバーを活用して事後的に還付するという案が財務省から示され、軽減税率より優れた部分もあるが、課題も多い。
- 軽減税率では、所得の低い世帯ではそれだけ飲食料品にも費やせる金額が少ないため、逆進性緩和の効果が薄れる可能性がある。これに対し、新たな案は最も必需性が高い飲食料品の消費増税分を所得にかかわらず上限を設けて還付するため、軽減税率より逆進性緩和効果はある。
- しかし、新たな案だと企業側のみならず消費者側の事務負担増加などの課題に加え、何よりも事後的な還付となり購入時の痛税感の緩和とならないため、消費抑制の緩和効果に乏しい可能性がある。
- 財務省の案の通り一人当たり上限年4000円の還付とすると、国全体では最大で5000億円程度の減収となることに加え、システム導入のための財政負担もかさむ。一方、内閣府の最新マクロモデルの乗数を用いてこの効果を試算すると、2017年度の経済成長率を+0.03%ポイント程度押し上げるにとどまる。
- 消費増税を実施してもコストが低く公平性の高い逆進性対策を併用すれば、その後の消費増税も実施しやすくなるが、逆に痛税感を緩和せずに国民の不満を高めてしまうとその後の消費増税が政治的に困難になる。そういう意味でも、消費増税時の逆進性対策には慎重な対応が必要であると考えられる。

### ●軽減税率に代わる新たな給付案のメリットと課題

2017年4月の消費税率引き上げ時に、飲食料品の消費税軽減策として、軽減税率の代わりにマイナンバーを活用して還付するという財務省案が示された。10%を超える消費増税時には効果的な逆進性対策が必要と考えられるが、2017年4月に予定されている消費増税に対して何らかの形で逆進性への配慮が必要な場合、酒を除くすべての飲食料品の消費税軽減としてマイナンバーを活用して事後的に還付するという財務省の導入案には、軽減税率よりも優れた部分もあるが課題も多い。

まず、軽減税率では、所得の低い世帯ではそれだけ飲食料品にも費やせる金額が少ないため、逆進性緩和の効果が薄れる可能性がある。これに対し、新たな案は最も必需性が高い飲食料品の消費増税分を所得にかかわらず上限を設けて給付するため、軽減税率より逆進性緩和効果はある。

実際、消費税率2%引き上げのケースで、酒を除くすべての飲食料品を軽減税率とした負担軽減と、同財源を使うことによる定額給付により逆進性がどう軽減するかを試算した。具体的には、消費税率を8%から10%に引き上げて逆進性対策をしないケースをベンチマークとして、「軽減税率」「定額

給付」で負担軽減額を試算した。結果は当然のことながら、軽減税率よりも同じ財源を定額給付したほうが逆進性の緩和効果が高いということになる。

年収階層別消費税率引き上げ負担軽減額(4人家族有業者ひとり)										
										単位:万円/年
年収	平均	~250	200~300	300~350	350~400	400~450	450~500	500~550	550~600	
8→10%負担増	8.0	6.3	5.2	5.2	6.6	6.1	7.1	7.0	7.6	
軽減税率	1.6	1.3	1.0	1.0	1.3	1.2	1.4	1.4	1.5	
実質負担	6.4	5.0	4.2	4.2	5.3	4.9	5.7	5.6	6.1	
還付	1.4	1.3	1.0	1.0	1.3	1.2	1.4	1.4	1.5	
実質負担	6.5	5.0	4.2	4.2	5.3	4.9	5.7	5.6	6.1	
年収	600~650	650~700	700~750	750~800	800~900	900~1000	1000~1250	1250~1500	1500以上	
8→10%負担増	7.9	8.5	8.2	8.8	9.3	9.7	10.2	11.2	10.9	
軽減税率	1.6	1.7	1.6	1.8	1.9	1.9	2.0	2.2	2.2	
実質負担	6.3	6.8	6.6	7.0	7.5	7.8	8.1	8.9	8.7	
還付	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	1.6	
実質負担	6.3	6.9	6.6	7.2	7.7	8.1	8.6	9.6	9.3	

(出所)総務省家計調査(2014年平均)

しかし、新たな案だとマイナンバー活用に伴い企業側のみならず消費者側の事務負担が増加するという問題がある。実際に、飲食料品を購入しても、買い物に必ずカードを持っていかないと負担が減らず、インターネットを通じて口座を登録しないと還付を受け取れない仕組みとなる可能性がある。このため、高齢者や子供への配慮を欠き、消費者全体に煩雑さを強いる制度となりかねない。

そして何よりも、事後的還付については購入時の直接的な負担軽減とはならないため、痛税感の緩和効果は乏しく消費が冷え込まざるを得ない。

更には、還付による減収分を補うために標準税率の引き上げ幅を大きくしなければならなくなる可能性がある。つまり、消費税の逆進性対策を施す場合には最大限の公平性や消費者への配慮が必要といえよう。

## ●給付付き税額控除にも課題あり

財務省の案の通り、国民一人当たりの給付額上限を年4000円とすると、国全体では最大で5000億円程度の減収になることに加え、システム導入のための財政負担もかさむ。しかし、代替財源は示されていない。これは、社会保障財源を毀損するため、他の分野で負担増が必要となることを示唆している。

更に、内閣府の最新マクロモデルの乗数を用いて上記の政府案導入の効果を試算すると、2017年度の経済成長率を最大で+0.03%程度押し上げるにとどまり、プラス効果は限定的となる。

一方、消費税の逆進性対策として給付付き税額控除が効果的という議論がある。しかし、実際導入できれば逆進性解消の効果は高いが、どの程度を低所得とみなして給付するかの線引きが難しい。また、来年から導入されるマイナンバー制度は所得しか把握できず、貯蓄が把握できない。このため、所得は少なくとも貯蓄の多い世帯にまで優遇してしまう可能性があることにも注意が必要だ。

①消費税率を2%ポイント引き上げ

	実質GDP (%)	実質GDP 成長率 (%ポイント)	消費 (%)
1年目	-0.48	-0.24	-1.02
2年目	-0.34	-0.04	-0.76
3年目	-0.30	-0.04	-0.84

②-①(上限4000円給付の効果)

	実質GDP (%)	実質GDP 成長率 (%ポイント)	消費 (%)
1年目	0.03	0.03	0.05
2年目	0.04	0.01	0.08
3年目	0.05	0.01	0.09

②消費税率を2%ポイント引き上げ+国民一人当たり年4000円給付

	実質GDP (%)	実質GDP 成長率 (%ポイント)	消費 (%)
1年目	-0.45	-0.21	-0.97
2年目	-0.30	-0.03	-0.69
3年目	-0.26	-0.03	-0.75

(出所)内閣府マクロモデル乗数をもとに筆者試算

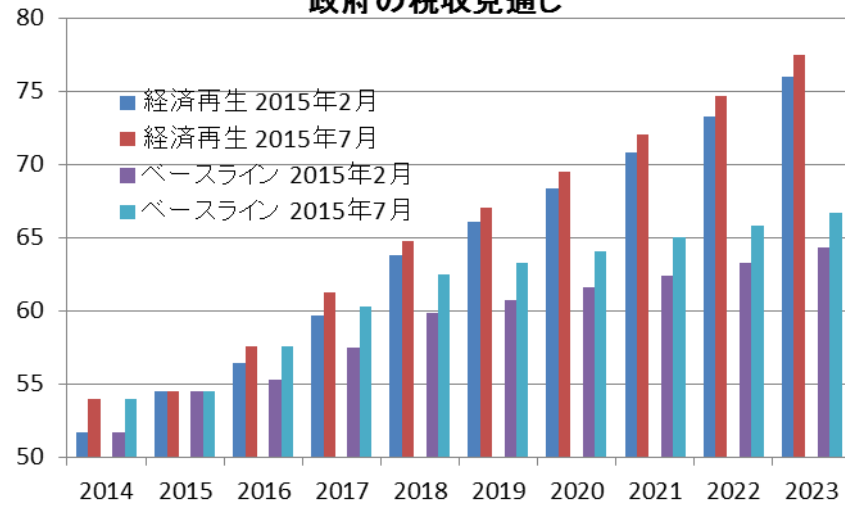
●低所得者給付にも課題あり

以上をまとめると、軽減税率よりも逆進性緩和効果は高いが、消費落ち込み緩和効果が低いことからすれば、財務省の導入案には課題も多いと思われる。しかし、その財源捻出が物理的に困難となれば、逆進性緩和措置なしで消費税率を上げざるを得ないが、さすがに10%を超える消費増税時には効果的な逆進性対策が必要と考えられる。ただ、消費増税は財政健全化を進めるためのものであることからすれば、できるだけ減収は少ないほうが良い。

なお、以前、2014年4月からの消費増税における逆進性対策として低所得者給付が打ち出された。しかし、これは住民税非課税世帯が対象となったことに問題がある。なぜなら、所得は少なくとも貯蓄の多い世帯にまで給付してしまった可能性があるからである。したがって、逆進性対策として今後も住民税非課税世帯向け給付に頼るのは危険であろう。

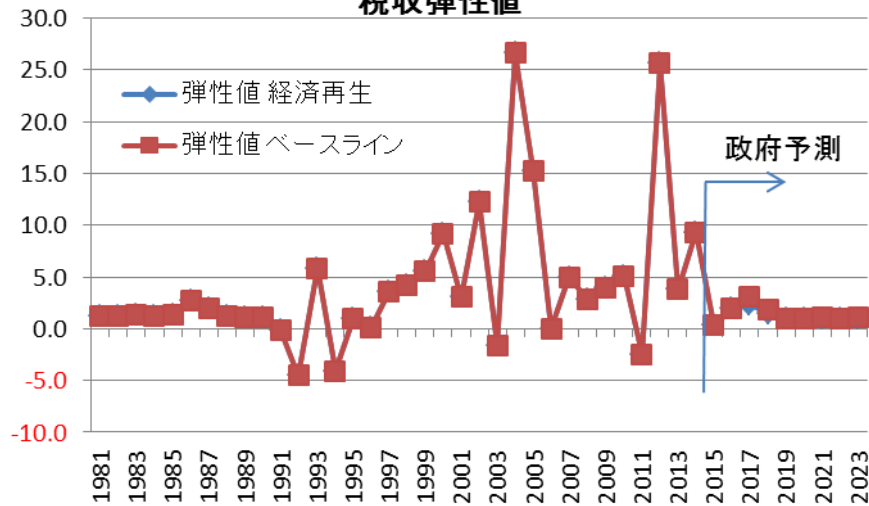
ただ、内閣府が公表している経済財政の中長期試算において、2014年度の税収が2.3兆円も上振れしているにもかかわらず2015年度の税収見通しが当初予算から変更されていないことや、税収弾性値が低めに見積もられていること等を勘案すれば、消費税率を10%まで上げなくても2018年度のプライマリーバランスの赤字幅GDP比1%目標を達成できる可能性はあり、現時点ではさらなる消費増税が不可避な状況とまでは言えない。消費増税を実施しても景気が落ち込めば、税収が増えるとは限らず、逆にギリシャのようにプライマリーバランスが黒字化しても景気が落ち込めば、財政の維持は困難になる。ただ、消費増税を実施してもコストが低く公平性の高い逆進性対策を併用すれば、その後の消費増税も実施しやすくなるが、逆に痛税感を緩和せずに国民の不満を高めてしまうとその後の消費増税が政治的に困難になる。そういう意味でも、消費増税時の逆進性対策には慎重な対応が必要であると考えられる。

## 政府の税収見通し



(出所) 内閣府

## 税収弾性値



(出所) 内閣府、財務省